

E59 函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路 (北斗茂辺地 IC～木古内 IC)の開通について ～路線の概要と整備効果について～

国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部

1 はじめに

函館開発建設部が事業を進めてまいりました函館・江差自動車道のうち、茂辺地木古内道路（北斗茂辺地 IC～木古内 IC 間 延長 16km）が、令和 4 年 3 月 26 日（土）15 時に開通しました。これにより、圏域中心都市・函館と木古内町が約 30 分で結ばれるようになりました。

開通に先立ち行われた開通式典（写真 1,2）には、国土交通大臣政務官をはじめ、北海道知事、関係国会議員、沿線首長、議会関係者、関係団体代表など、約 120 名の来賓の方々にご臨席いただきました。



写真 1 開通式典の様子



写真 2 鈿入れ・くす玉開披の様子

2 路線の概要

2.1 函館・江差自動車道 茂辺地木古内道路の概要

函館・江差自動車道は、北海道函館市を起点とし、北斗市、木古内町、上ノ国町を經由して江差町に至る一般国道の自動車専用道路であり、北海道縦貫自動車道や函館新外環状道路と一体となって、圏域中心都市である函館市や近隣都市間を連絡する高速ネットワークを形成します（図 1）。

茂辺地木古内道路は、高速ネットワーク拡充による近隣都市間の連絡機能の強化を図り、広域周遊観光の活性化、救急搬送の速達性・安定性向上、農水産品の輸送効率化、緊急時の避難・救援ルートの形成が期待されます。

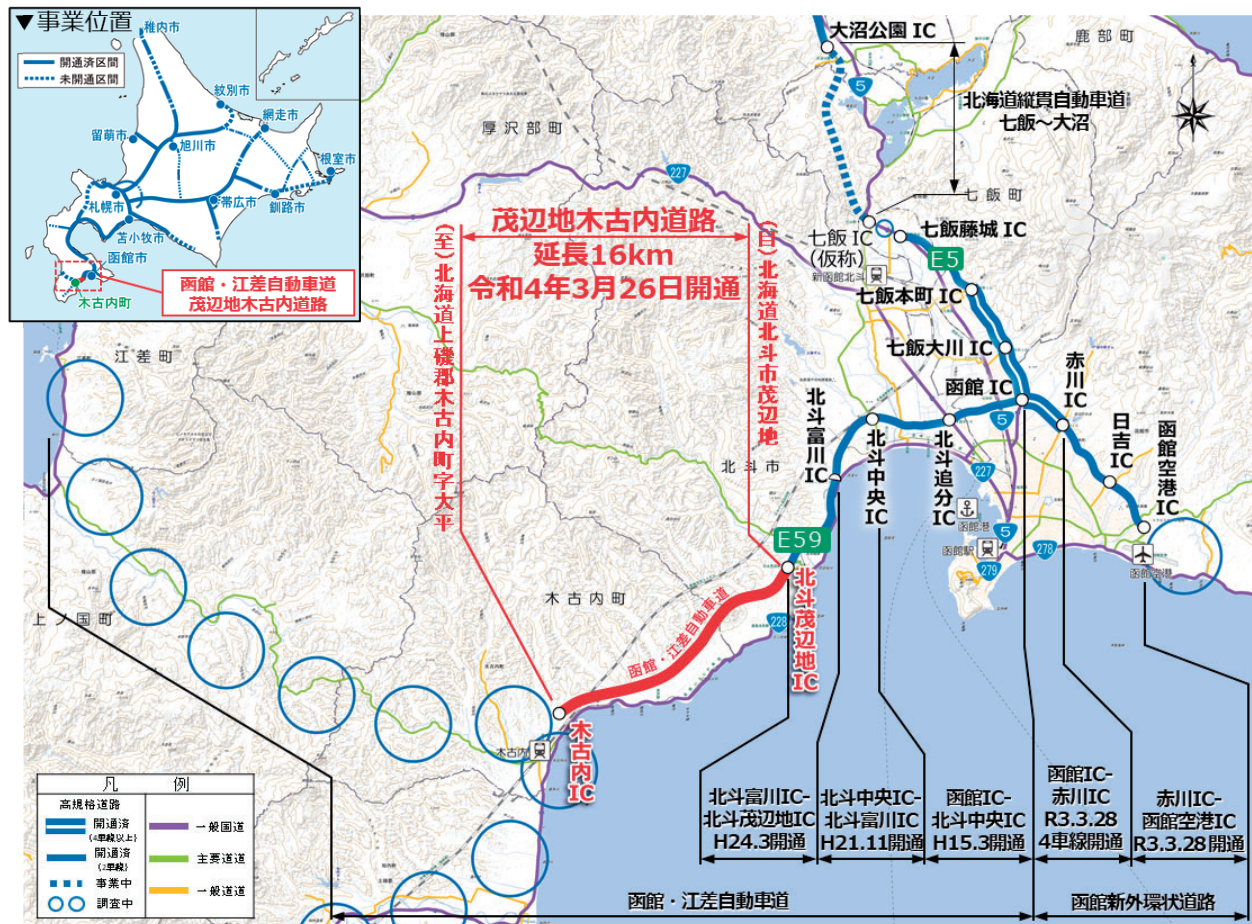


図1 開通区間位置図

2.2 工事の概要

茂辺地木古内道路（北斗茂辺地 IC～木古内 IC 間）には、別当大橋（写真3）をはじめとする11の橋梁、渡島丸山トンネル（写真4）が設置されており、構造物比率は約30%となっています。

木古内町内に設置された橋梁のうち、橋長上位4橋梁には、木古内町の伝統行事「寒中みそぎ祭り」の御神体である「別当」・「稲荷」・「山の神」・「弁財天」の名称が使用されています。



写真3 別当大橋の施工状況



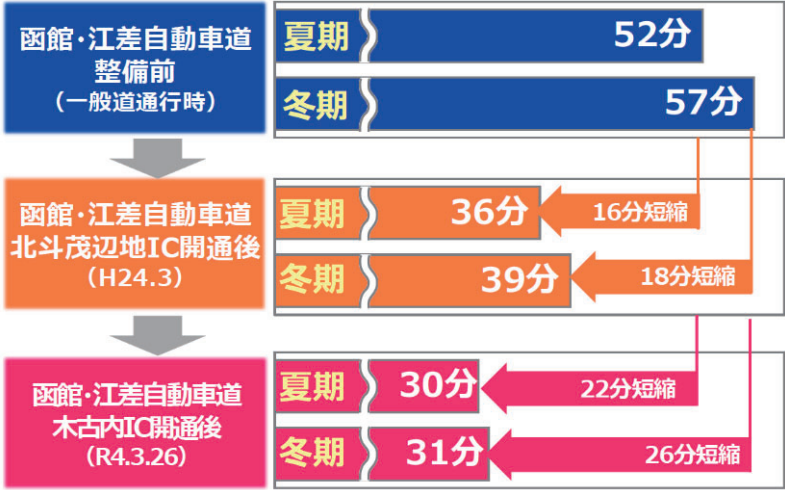
写真4 渡島丸山トンネルの施工状況

3 茂辺地木古内道路の整備効果

3.1 所要時間の短縮

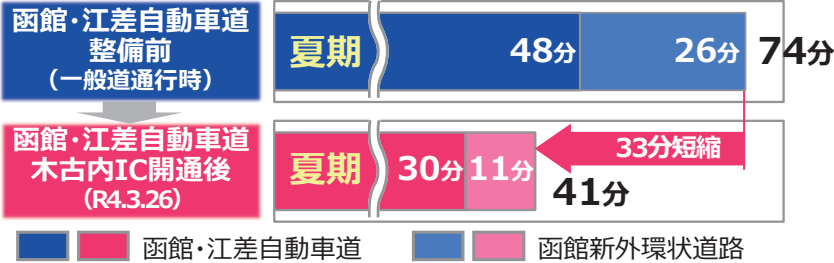
今回の茂辺地木古内道路の開通によって、函館市～木古内町間の所要時間が22分短縮され30分（図2）となります。また、函館空港～木古内町間は、令和3年3月に開通した函館新外環状道路（空港道路）を併用することにより、所要時間が33分短縮され41分（図3）となります。

この時間短縮により、道南地域の観光活性化など、さまざまな効果が期待されます。



資料：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査、北斗茂辺地 IC～木古内 IC は70km/h、冬期速度はH28～30年度ETC2.0プローブ速度（通常期：4～11月、冬期：12～3月）から算出した冬期低減率を通常期速度に乘じ算出

図2 函館 IC～木古内 IC 間の所要時間の変化



資料：平成27年全国道路・街路交通情勢調査、北斗茂辺地 IC～木古内 IC は70km/h、函館 IC～日吉 IC は80km/h、日吉 IC～函館空港 IC は70km/hにて算出、函館・江差自動車道整備前は空港道路は未整備

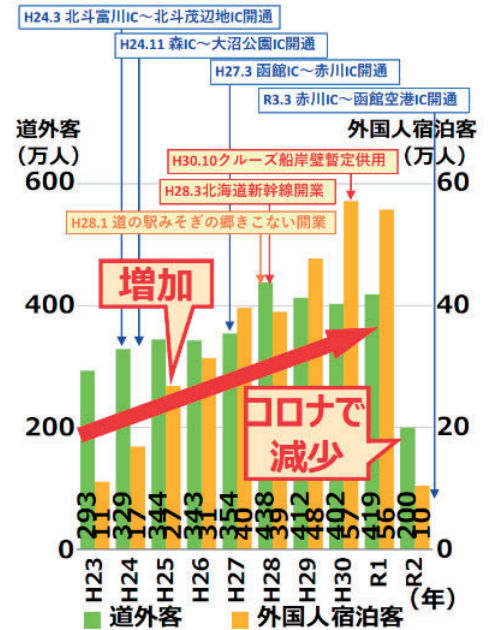
図3 函館空港～木古内 IC 間の所要時間の変化

3.2 道南地域の観光活性化を支援

道南地域は、北海道新幹線、函館港（クルーズ船岸壁）の整備により、近年、観光入込客数、訪日外国人宿泊客数が増加傾向にあります（図4）。

木古内町をはじめとする周辺地域では、道南西部9町を巡る観光モデルルートを紹介（図5）など、周遊観光活性化に向けた取組みを実施しています。

茂辺地木古内道路の整備により、昨年度開通した函館新外環状道路と一体となり、函館空港から主要観光地までのアクセス強化が図られるなど、新型コロナウイルス感染症の影響で大きく落ち込んだ道南地域における観光活性化支援します。



資料：北海道観光入込客数調査
 (道南西部9町〔木古内、知内、福島、松前、上ノ国、江差、奥尻、乙部、厚沢部〕と函館市、北斗市の合計)

図4 道南西部9町の観光入込客数（過去10年）



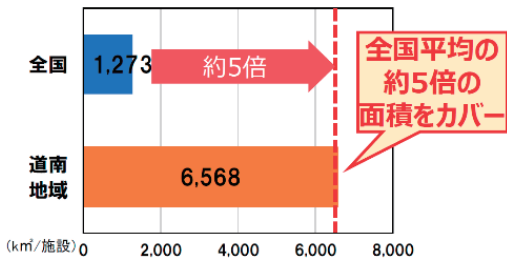
図5 道南地域の観光施設・交通拠点

3.3 速達性・安定性向上による救急搬送の支援

道南地域の三次医療施設カバー面積は全国平均の約5倍と広大です（図6）。

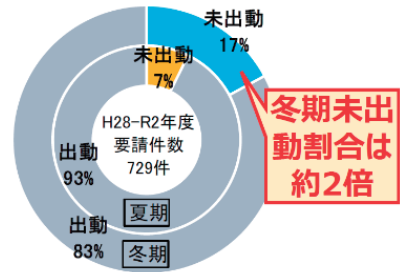
天候不良や夜間などによる冬期のドクターヘリの未出勤割合は、夏期の約2倍であり、急カーブにより事故リスクが高い国道228号での搬送を余儀なくされています（図7）。

茂辺地木古内道路の整備により、急カーブ区間の回避や速達性の向上を図り、函館市内の高次医療施設まで安定した救急搬送を支援します（図8）。



資料：全国都道府県市区町村別面積調（R3.10.1）、全国救命救急センター設置状況（R3.5）

図6 三次医療施設のカバー面積



資料：H28-R2年度道南ドクターヘリ事務局

夏期は4～11月・冬期は12～3月。渡島西部4町（松前町、福島町、知内町、木古内町）、檜山南部2町（江差町、上ノ国町）を対象

図7 渡島西部・檜山南部のドクターヘリの未出勤割合

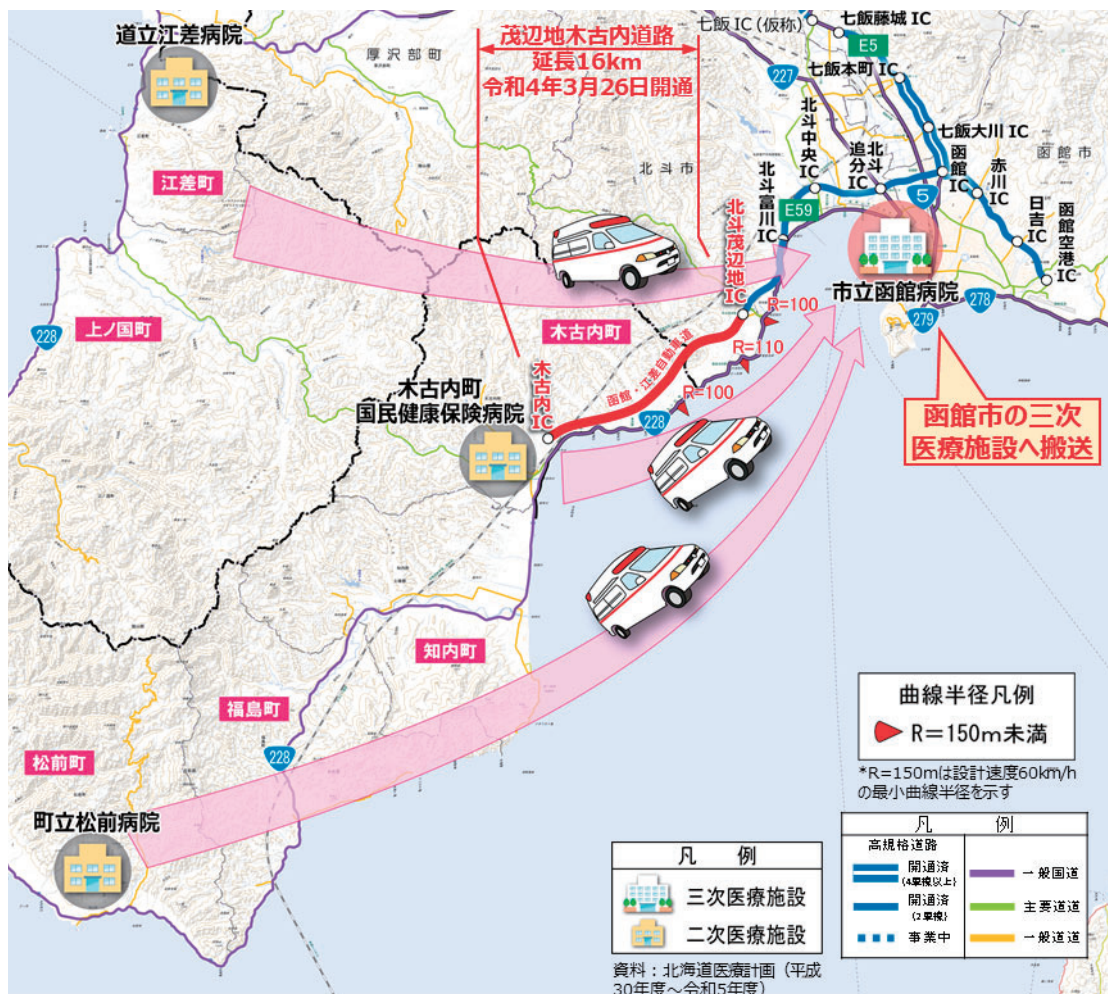


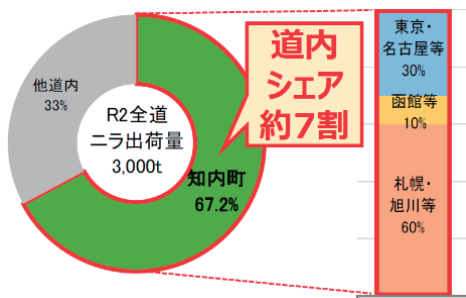
図8 渡島西部・檜山南部から函館市への救急搬送

3.4 農水産品の輸送効率化を支援

道内シェアの約7割を占める知内町のニラは、函館空港・函館港を經由して道外に出荷されており、近年は、ビニールハウスの増設、出荷施設のライン追加により、生産量増加に力を入れています（図9,10）。

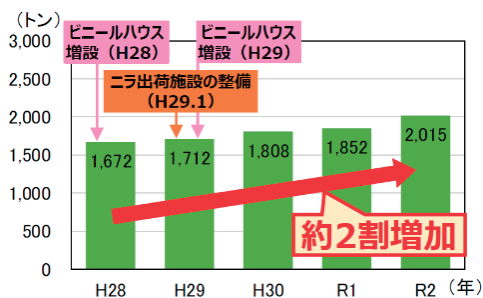
道内シェアの約8割を占める道南地域のマグロは、約4割が函館港から東京に出荷されており、豊洲市場でも身焼けが少ないと高評価を得ています（図11）。

茂辺地木古内道路の整備により、道南地域における主要な農産品や水産品であるニラやマグロなどの輸送時間の短縮、冬期の安定輸送など広域物流の効率化を支援します（図12）。



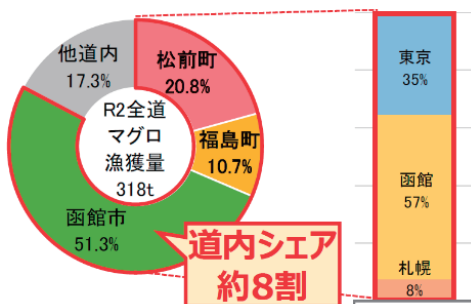
資料：出荷量はR2年作物統計、出荷先は新函館農業協同組合ヒアリング

図9 全道ニラ出荷量・出荷先



資料：新函館農業協同組合ヒアリング

図10 知内町のニラ出荷量の推移(過去5年)



資料：漁獲量はR2北海道水産現勢、出荷先は松前さくら漁業協同組合、函館市漁業協同組合ヒアリング

図11 全道マグロ漁獲量・出荷先



図12 農産品・水産品の輸送状況

3.5 緊急時の避難・救援ルートの形成

茂辺地木古内道路に並行する区間には、津波浸水想定区域が存在しており、東北地方太平洋沖地震発生時には、国道228号の北斗市～知内町間で約28時間の通行止めが発生しました。

茂辺地木古内道路の整備により、津波浸水想定区域を回避する避難及び救援物資輸送ルートを形成するとともに、緊急時における避難場所を提供します。



図13 緊急時の避難ルート、救援物資輸送ルートの確保、開通済み区間における緊急避難施設

4 おわりに

函館開発建設部は、防災・減災、国土強靱化の取り組みの加速化、深化を図るため、引き続き高速道路ネットワークをはじめとする道路整備や老朽化対策等を、関係機関と連携しながら、鋭意取り組んで参ります。